

いのち、痛みに全力

FUKUOKA WAJIRO HOSPITAL 2005.12

地域医療により大きく貢献!!

第8号

平成17年12月

病院機能評価認定 臨床研修病院

医療法人財団 池友会



福岡和白病院

〒811-0213
福岡市東区和白丘2丁目2-75
TEL.092-608-0001
E-mail:info@f-wajiro.biz
http://www.f-wajiro.biz

『健康教室』のご案内

みなさんはある日突然「糖尿病」「心臓病」「脳卒中」などと診断されたらどうしますか？

それは食事、運動、休養、喫煙、アルコールなどといった生活習慣と関係しているかもしれません。

わたしたちは、これらの病気について理解を深めて頂くために「健康教室」を開いています。

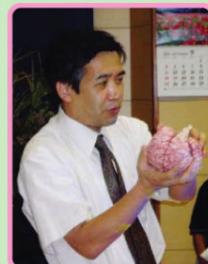
いつまでも健康でいたいものです。

あなたの地域でもこの教室はいかがでしょうか？

興味のある方、是非ご連絡下さい。



乳腺外科部長
古賀 淳先生



東アジア
脳神経センター長
増田 勉先生



救急センター部長
富岡 謙二先生



ハートセンター長
齊藤 太郎先生



お問い合わせ先 福岡和白病院 地域医療室 担当/竹元・松下
TEL.092-608-0001(内線1130)

※どなたでもご参加できます。どこへでもたとえ少人数グループでもお伺い致します。

福岡和白病院の基本理念と基本方針

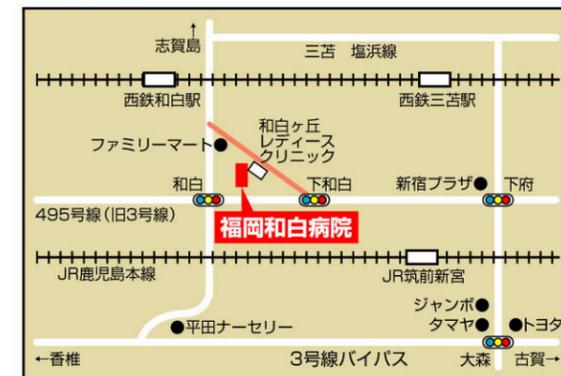
基本理念

手には**技術**、頭には**知識**、患者様には**愛**を

基本方針

1. 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
2. 総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
3. 地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

案内図



●河野寛幸氏・福岡譲二氏インタビュー
「ER」のシステムを日本中に構築したい！

収録日 二〇〇五年十二月一日
取材・構成 森山真一

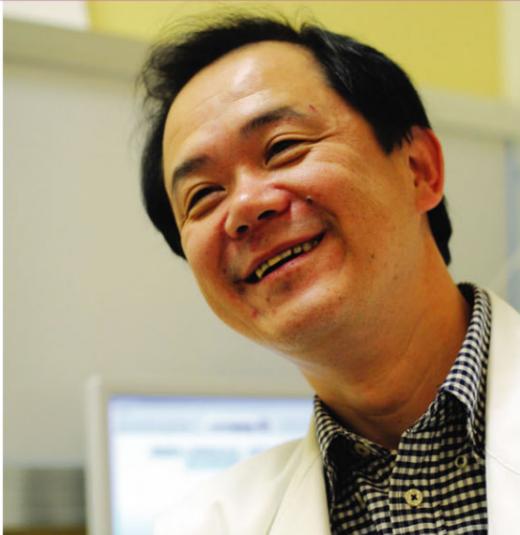
医療法人財団 池友会 福岡和白病院

救急センター長

河野 寛幸

救急センター部長

福岡 譲二



近年、我が国でもER型救急システムが注目にされるようになってきた。とは言え、ERに関する概念と定義はまだ定着していない。
簡潔に言えば、それは救急患者の初期診療と言えないだろうか。例えば救急車で運ばれて来た患者を、文字通り緊急に診察し、問診をいれずに専門医にバトンタッチする。そのコーディネーター役をするのがERの医師である。患者にとって、これほど頼もしいことはない。
このER治療に早くから関心を持ち、我が国のERの創始者の一人、とも言われているのが福岡和白病院の救急センター長・河野寛幸医師である。

そしてその河野医師とともに患者様を救うことが私の趣味と公言してはばからないのが、同病院の救急センター部長・福岡譲二医師。真に鬼手仏心のお二人にER型救急システムについて大いに語っていただいた。

河野 福岡先生は並直明けたところの「ER」について疲れのイロも見せず、元気に話さね。

福岡 私は月の内、約半分は当直をしているので、もう身体が慣れているわけじゃないね。

それに、私は患者様を診察したり、治療したりして、喜んでほしいことが趣味になっているんです。

趣味でお給料を頂くのは申し訳ないですね(笑)

河野 私も、医療を単なる仕事とは思っていません。

目の前にいる患者様を、何とか助けたいという気持ちで自然な気持ちから行なっているものだと思います。

これが、いわゆる人間的と言えぬ医療じゃない、社会、大衆が求めるものだと思います。

それが、福岡先生の「ER」の趣味とまを言えるのは、鬼に金棒と云うことじゃないね。

福岡 河野先生にそのように言っていたら光栄です。

私は、河野先生の日本で模範となるような「ER」システムを構築したいという高邁な理想に引き付けられて、こ

きつていこうとあるんですよ。

それは、目の前で人が倒れた時に、傍にいる誰もが、救命処置を行なえるような心肺蘇生を普及させなければ、救命というには限界があるのではないかと。

福岡 私もそう思います。

倒れた人を救うのに、本当に大切なのは、倒れてからの最初の5分ですからね。

119番に連絡して、救急車が到着するまでの5〜10分という時間に、何をやるかで、結果は大きく変わりますからね。

河野 そう、救急車を呼ぶだけじゃ駄目なんだよね。

7〜8年前から、私は、心肺蘇生の教育活動に力を入れているけど、実際に受講した人が、その技術や知識で、家族を助けたという報告を何度も耳にしたんだよ。

それを聞いて、やっぱり多くの人に普及させないといけないという気持ちが強くなりましたね。

福岡 河野先生は休みの日には、よく心肺蘇生法の講習会を行なっていますよね。

先生の趣味みたいなものですかね(笑)

河野 そうですね(笑)

最近は、オーディオやウォーキングなんかの趣味をそっち除けてやっていますからね。

でも、和白病院で、平均で二日に11.5件、年間にする約四、二〇〇件もの患者様が救急車で搬入されていることを考えると、自分たちの周りでもいつ不測の事態が起こり、それらの技術が必要になるかわからないと思つたよ。

福岡 不測の事態と言えば、今年の3月に福岡でも大きな地震がありましたし、その時言った場合にも、医師や看護師だけではどう

の4月に福岡和白病院に赴任してきたわけですが、将来を見越して、屋上へ入りポートが設備されていることや、スタッフの医療への情熱に本当に良い病院に来たと思っております。

河野 「ER」という言葉は、最近では「ER」のイメージもあり、医療職以外の方々にも認知されるようになってきました。が、まだまだ一般的とは言えませんね。

私は、「ER」というのは、分かりやすく「ER」に似ているイメージがあると思っております。

「24時間いつでも、開いていて、何でも対応する」という姿勢です。ただ、立ち読み感覚で来られる方もありますからね(笑)

福岡 確かにそうですね。魂のこもった「ER」って感じじゃないですかね。

河野 私は、蒲池総院長の理想が具現化されたこの病院で、「ER」に関しては未成熟と言えぬ我が国にモデルERとして定着させていきたい、というのが大きな願いの一つです。

それに加えて実は、私は、救急救命を取り組んでいて、もう一つ

しつこい事柄にならぬともあるでしようかね。

できて損することはないですかね。

河野 そういえば、福岡先生は幼少の頃、大きな地震に遭われたそうですね。

福岡 そうなんです。実は、以前は宮崎に住んでいて、6歳の時に「ミビ」の地震に遭いました。

この時、医師を含めて、日本中から助けていただきました。その時の体験が、今の私につながっているような気がします。

社会への恩返しと言ったことですね。

河野 福岡先生の原点は、少年時代の原体験からきていたんですね。

先日のパキスタンの地震の際も、現地に行かれましたね。

恩返しも、国内に留まらず、海外にまでこの技術は、さすがに仕事が趣味というだけありますね(笑)

福岡 海外への援助活動は、一九九七年のマレーシアを皮切りにボリビア、ヴェネズエラ、エルサルバドル、アルジェリアなどいろいろ行かせてもらいましたね。

ただ、それも周りの理解と協力があってこそできたことだし、感謝しています。

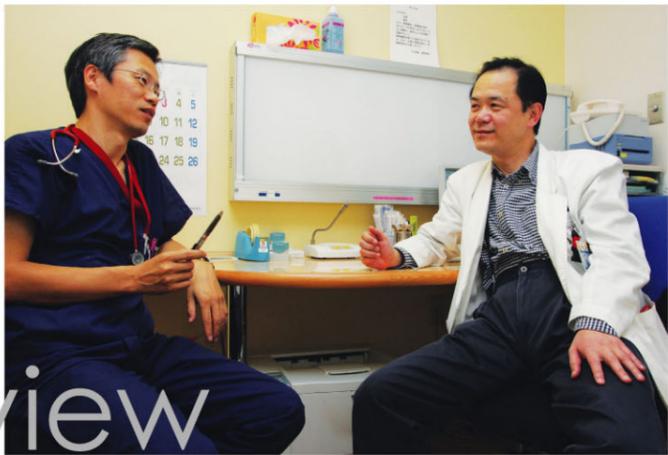
河野 「周りの理解と協力」、それがERというシステムにも重要じゃないですかね。

まだまだ和白病院のERは始まったばかりですが、実践しながら、このシステムを日本中に構築したいですね。

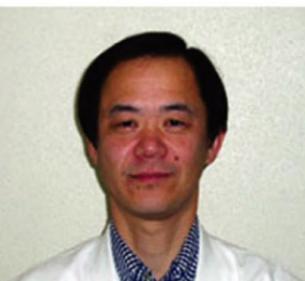
福岡 そうですね。お互い健康には気をつけて、より良いERを築いていきましょう。



interview

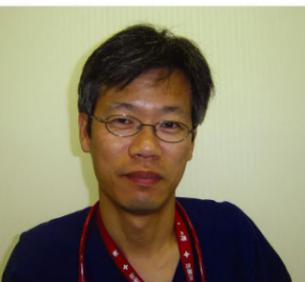


ER



医療法人財団 池友会 福岡和白病院 救急センター長 河野 寛幸

昭和32年生まれ。平成16年12月より、福岡和白病院に勤務。趣味は、オーディオ、ウォーキング。最近では、休日に心肺蘇生法の普及のための、教育活動を行っており、これが趣味の一環になっている。



医療法人財団 池友会 福岡和白病院 救急センター部長 福岡 譲二

昭和36年生まれ。平成17年4月より、福岡和白病院勤務。趣味は、仕事。災害医療にも熱心に取り組まれ、国際緊急救助隊などで、海外での医療活動にも積極的に参加されている。

Profile

基本理念 A total healthcare of high quality with a hearty smile.
 笑顔と真心で より質の高い 総合健診をめざす



福岡和白総合健診クリニック統括部長
高木 洋次

ついても、福岡和白病院東アジア脳神経センター長増田先生、福山脳外科部長のご指導により年間4千名を超える勢いを見せています。職員数も、パートを含めて50名と増えています。今後の目標として、人間ドック学会、総合健診学会を含め、学会発表を行うことにより、予防医学としての充実(質の向上)を図って行きます。

今後、日本でも有数の健診施設(質量)として、各方面の方々に、認知していただくことができるような、施設にして行くことが最大の目標です。

福岡和白総合健診クリニック紹介



福岡和白総合健診
 クリニック統括部長
高木 洋次



福岡和白総合健診
 クリニック理事長
山永 義之

博修会 福岡和白総合健診クリニックは、平成17年4月1日、予防医学部門の充実を目標に、福岡和白病院から独立しました。当初の予想では、受診者数月平均1千名、年間1万2千名、MAX/日50名を目標とし、PETドック年間3千名を目標として始まりました。職員数も、20数名でした。

開始当初の感想では、こんなに広いスペースを、お客様で一杯にする事ができるのだろうか。一つのクリニックとして、業務をやって行く上では、色々な担当部署が必要となることも不安の一要因でした。しかし、山永理事長、野田名誉院長、杉江院長、の協力もあり、順調な滑り出しを見せています。

健診の総受診者数、1万4千人、MAX80/日、PETドック4千名/年間予想と毎日盛況です。脳ドックに



福岡和白病院の移転から半年以上が経ちました。患者様を始め多くの方に、移転前から、「古い和白病院の建物は、一体どうなるのか？」という質問を多数頂きました。その旧福岡和白病院の建物は、福岡和白病院の健診部門とデイケア部門が、外観も新たに、1階を「医療法人社団博修会 福岡和白総合健診クリニック」、2階を「和白デイサービス」として、それぞれ独立し、新しく運営を行っています。また、3階より上の階については、介護付有料老人ホーム「わじろの郷」として利用されることも決まりました(H18・2・1オープン予定)。

こちらの詳細については、次回、お知らせできればと考えています。

今回は、「福岡和白総合健診クリニック」を中心に、新しくなったその内部をご紹介します。

PETドックコースのご案内

各種コース	料金(税込)
スタンダードコース PET検査で疑わしい画像を、さらにCTによりチェックし、発見度を高めます。また腹部と甲状腺の超音波検査を追加しました。	89,250円
エグゼクティブコース PET検査に他の検査を組み合わせることで、さらに発見率を高めるコースです。	105,000円
ブレインコース PET検査に、腹部と甲状腺の超音波検査、MRI-MRAによる頭部の検査を加えた充実のコースです。	126,000円
スペシャルコース (1泊2日) 胃カメラを追加することで、胃ガンの発見率を高めます。	136,500円
ロイヤルコース (1泊2日) スペシャルコースにMRI-MRAによる頭部の検査、エルゴメーター、心臓超音波検査を加えた、まさに全身を検査するコースです。	168,000円
インペリアルコース (2泊3日) ロイヤルコースに血圧脈派、大腸内視鏡、骨盤MRIを加えることで、体の隅々まで検査する安全・安心のコースです。	210,000円

●ご不明な点や詳細についてはお気軽にご相談下さい

TEL.092-608-0138 HP.<http://www.fw-kenshin.net> mail.fw-doc@fw-kenshin.net

福岡和白総合健診クリニック

健康相談室

狭心症・心筋梗塞

循環器内科部長
比嘉 徹

Q

寒くなると狭心症や心筋梗塞の患者が増えると言いますが、狭心症・心筋梗塞とはどんな病気ですか？

A

寒くなると、手や足の血管が縮んだり、汗をかかなくなったりして、心臓に負担がかかります。心臓は一日に約10万回、生涯休みなく働き、全身へ血液を送るポンプの働きを行っています。このポンプを動かすエネルギーである酸素や栄養分を血液と共に送る血管が冠動脈です。しかし年をとるにつれて、この冠動脈の内側の壁にコレステロールなどの脂質がたまってきます（動脈硬化）。動脈硬化が進行すると、冠動脈の中が狭くなり血液の流れが悪くなってしまい、心臓へ十分な血液を送る事が出来なくなってしまいます。狭心症では、動脈硬化が進んだり、血管の攣縮（けいれん：スパズム）によって、冠動脈の中が狭くなってしまい、心臓の筋肉に十分な血液が行き渡らなくなり、心臓から危険信号として胸の痛み（胸痛）や圧迫感が現れます。ただし狭心症の状態であれば、5～15分程度で症状は改善します。しかし冠動脈がさらに狭くなり、完全に詰まってしまい血液が流れなくなった状態を心筋梗塞といい、そのまま進行すると心筋細胞が壊死をきたし、生命に関わる危険な状態になる事があります。この様な狭心症や心筋梗塞の状態を虚血性心疾患といいます。



Q

治療方法にはどのようなものがあるのですか？
また、病気にならないようにするためには、どのような事に気をつければよいですか？

A

治療方法には内科的な方法と外科的な方法があります。内科的な方法としては、①薬によるコントロールを行う“薬物療法”②“経皮的冠動脈血管形成術（PCI）”があります。PCIに関しては、先端に風船（バルーン）の付いたカテーテルを用いて狭いところを拡張する風船治療（POBA）、風船で十分に広がらない場合には金属を網の目状にした筒（ステント）を挿入し血管を内側から支えるステント挿入術などがあります。他にも幾つかの手段を用いて、狭くなった冠動脈を広げる治療を行いますが、冠動脈の狭窄が“風船治療”を行うのに難しい場所であったり、複数の場所が悪くなっている場合には、外科的な方法で内胸動脈や腕の動脈、下肢伏在静脈などを使用して、狭窄部周辺に血液を送る為の新しい通り道（バイパス）をつくる“冠動脈バイパス術”などがあります。しかし最も大切な事は、この様な病気にならないようにする為、高血圧症や糖尿病、高脂血症の治療、禁煙、健康的な食事や運動、ストレスを軽減するなどの、いわゆる生活習慣を改善させる事が大事になってきます。

リウマチ・関節症センター



リウマチ・関節症センター長

林 和生

関節外科センターとして、常に最先端の治療を取り入れ（人工関節部門では常に世界のトップレベルの開発を行っています。また、最近新しい研究手法を用いてリウマチの患者様の治療がより安全に行える薬の開発に取り組んでいます。）同時に地域の整形外科専門医との連携を密にして地域に根ざした医療を目指しています。

★股関節外科

1. 変形性股関節症：高齢者に人工関節置換術を、若年層に寛骨臼回転骨切り術を行っています。
2. 大腿骨頭壊死：回転骨切り術を行っています。

★膝関節外科

変形性膝関節症：高齢者に人工関節置換術を若年者に高位脛骨骨切り術を行っています。

★関節リウマチ

上肢・下肢の関節手術全般を行っています。また、従来の抗リウマチ薬で寛解しない患者様には生物学的製剤による治療も行っています。

Profile 林 和生
[プロフィール]

昭和29年2月11日生。
昭和53年九大医学部卒業、日本整形外科学会専門医、日本リウマチ学会登録医。

脊椎外科

脊椎外科部長
稲留 辰郎

脊椎外科は、平成17年11月1日に当院新設となりました。日本人の平均寿命が延び、高齢化社会を迎えて、腰椎、頸椎疾患の患者様は急速に増える傾向にあります。当科では、腰痛、肩こり、手足の痛み、しびれ、脱力など脊椎（背骨）からくる疾患を中心に診療を行っています。最新の画像診断機器を駆使し、的確な診断の下、手術を含めた専門的治療を行います。年齢に関係なく、少しでも元の状態に戻れるよう、積極的に治療していきます。

Profile 稲留 辰郎
[プロフィール]

出身大学：九州大学卒
資格：日本整形外科学会専門医
日本脊椎脊髄病学会指導医
趣味：ドライブ、ゴルフ、野球、読書（歴史物）
特技：空手
モットー：時に癒し しばし支え つねに慰む

★コメント

脊椎専門医として、病状や治療法の説明や生活指導などを懇切丁寧に行い、また手術では手術用顕微鏡を用いて、安全性、正確性を追求しています。

平成17年10月16日（日）に、福岡医師会主催のサッカー大会がありました。

福岡市内の病院などを中心に14チームが参加し、見事優勝することができました。

休みや業務後の練習が実を結ぶ嬉しい結果でした。



サッカー優勝

平成17年11月20日に駅伝大会を行いました。普段の業務で鍛えた自慢の足(?)を活かし、チーム一丸となってタスキをつなぎ完走しました。



福岡和白病院駅伝大会